

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 倍量	感染症(中) ウイルス	出典	概要
												ウエストナイル ウイルス	第144回日本獣医 学会学術集会 2007 年9月2-4日	近い将来、日本にも侵入する可能性があるため、日本産 蚊の室内駆除剤を用いてウエストナイルウイルス増殖・媒 介能を調べた。アカイエカ、ヒトスジシマカ、オオクロヤブ カでウイルス注入実験を、アカイエカ、ヒトスジシマカで吸 血実験をしたところ、全種類の蚊においてウイルスの増殖 が観察された。媒介試験では、アカイエカ注入、吸血面 群、ヒトスジシマカ2系統の注入群、1系統の吸血群では 供試したすべてのマウスが12日以内に死亡し、死亡した マウスからはWNV が検出された。
												B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1197-1205	日本赤十字血液センターに保管されている1997-2004年 の反復献血者の全献血の遡及調査を行い、ID-NATのみ HBV陽性である血液由来の血液製剤の輸血によるHBV 伝播リスクを検討した。HBV ID-NATを実施したHBV転換 献血者の保管血液15,721本中158検体 (1.01%) が陽性で あった。スクリーニングをすり抜けたHBs 抗体価の低いオ カルトHBVキャリア由来の血液製剤を原因とするHBV感 染リスクは、HBsAg発現前やMP-NATウインドウ期の献血 による伝播リスクよりも10倍以上低い。
												B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1162-1171	日本赤十字のスクリーニングシステムでHBsAg及び抗B 型肝炎コア抗原抗体が陰性であったHBV DNA陽性献血 者26名において急性HBV感染におけるウイルスマーカー の動態を調べた。検出可能期間の中央値は、HBV DNA が個別NATで74日、MP NATで50日、HBsAgが42日 であった。26名中6名は変異型ウイルスに感染し、うち3名で はHBsAgが検出できなかった。HBV NATは、MPで行った としても、HBsAg検査よりも効果的で、HBsAgウインドウ期 前後の感染献血者を排除することができる。
												B型肝炎	第31回日本血液事 業学会総会 2007 年10月 3-5日	平成19年3月、輸血によるHBV感染が疑われるとの報告 が千葉県赤十字血液センターにあった。因果関係の確認 のために実施した当該輸血用血液製剤に係る保管検体 の個別NATは陰性であり、献血者追跡調査を行った。1名の 献血者が平成19年1月にB型肝炎を発症したとの情報が 得られ、調べたところ、献血者のHBV-DNAは患者のそれ と塩基配列が一致した。20プールのNAT陰性、HBV保管検 体個別NAT陰性であったが、献血者追跡調査により輸血 用血液製剤からのHBV感染が示唆された症例であった。